

特集1 **今は絶好の売り時!?**
不動産を賢く売る方法

社長権限特任
特集2 **ホンダ**
リコール危機の**教訓**

数字で読む**大和証券グループ**
海外縮小による副作用

週刊 **ダイヤモンド**
DIAMOND WEEKLY <http://dw.diamond.ac.jp/> 2015 3/7 定価 710円

マンション 戸建て

**高く売れる家
売れない家**

アジア人も殺到!
バブル期並みに
マンション高騰中

業界のタブーにメス
仲介ビジネスの裏側
すべて教えます!

価格の決め方から
不動産会社選びまで
高く売るノウハウ満載

日本を襲う
大空家時代
税金6倍は本当か?

週刊 **ダイヤモンド**
2015年3月7日号から抜粋

**地盤改良工事をメインに、
国内外のインフラ構築に
貢献する**

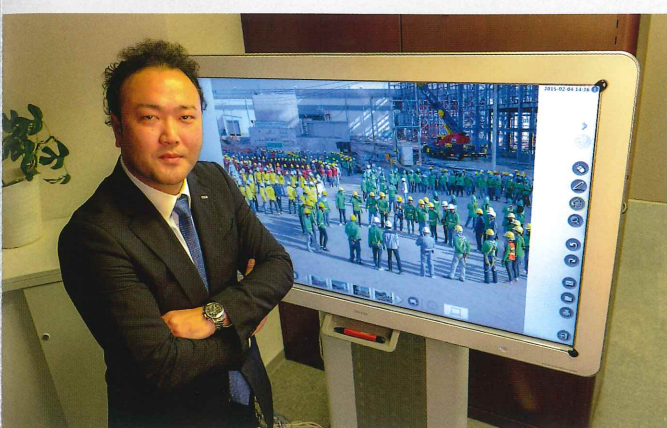


双栄基礎工業株式会社

日本 本の土地は1日掘れば水が出て、止水作業をしなければ基礎工事もままなりません。砂層であれば掘削すると空気や水分があつた空間が崩れてしまう。地震などで水脈や地層が動いてしまったため、工事ごとにボーリングを行つて調査をする必要がある。地盤は生き物であり、私たちの仕事は地球の自然を制御する仕事であるといえます」

そう語るのは双栄基礎工業・若山圭介社長。創業は1977年。事業の中心は、薬液注入工法による地盤改良工事である。薬液注入工法とは、凝固する性質を持つ化学薬品（薬液）を

地盤に注入することで、止水性や強度を増大させる工法のこと。地盤崩壊を防ぎ、湧水を防止するなどの効果があり、地下工事における安全性が確保できる。



双栄基礎工業 若山圭介 代表取締役社長

同社では創業以来、上下水道をはじめ、ガス管路や道路、鉄道などの一般土木工事の他、建築工事などの幅広いインフラ工事の分野で、地盤改良工事の実績を重ねてきた。最近では、耐震補強や液状化防止、構造物の維持・補修など、社会的ニーズが高まっている付帯分野にも事業を展開、「生活を支えるインフラの礎となる仕事であり、社会

双栄基礎工業

地盤改良工事をメインに、国内外のインフラ構築に貢献する

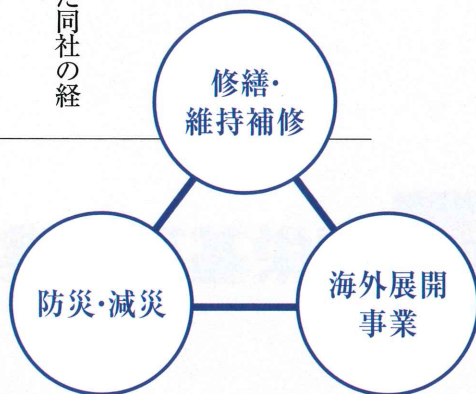
創業以来、薬液注入工法を中心とする地盤改良工事で成長を続ける双栄基礎工業。インフラ構築や環境整備に欠かせない工事であり、高い専門性が要求される。同社では設計から管理・施工までをワンストップで迅速に提供、海外にも事業領域を広げている。

に貢献しているという自負があります」と若山社長は明かす。設計から管理・施工までをワンストップで対応

同社の強みは、地盤改良工事を、設計から管理・施工まで、ワンストップで行っている点だ。例えば湧水があつた場合、電話一本で、現場の状況に合わせたチームを派遣し止水作業を行う。そのスピーディな対応を可能にしているのが、高いリテラシーと専門性を持ち、現場で柔軟なスキルを発揮する、技能者と管理者のチーム編成である。建設業者の3分の1が55歳以上といわれ、人材不足が深刻な建設業界の中で、同社の「技能者」の平均年齢は40歳前

後と若く、機動力に優位性を持っている。それを可能にしている背景には、不況時にも「技能者」を手放さなかつた同社の経営努力がある。「もともと建設業界は季節ごとに受注の波が大きく、固定費を掛けにくいという特徴があります。夏場の稼働率が50%としたら、冬場の稼働率は120%。当社では、その夏場の50%を乗り切るため、資材センターの機械整備で日給を払うなどの休業補償をしながら、人員を確保してきた。それが結果的に当社の強みにつながったのです」（若

主な事業内容



躍進企業の
経営者が
語る





港湾での液状化対策のための薬液注入。液状化対策は河川や空港でも行われる



首都高速中央環状線の新設工事。深度約50mで薬液を注入する作業

山社長

若山社長が事業承継で会社を継いだのは8年前。東京五輪開催決定やアベノミクス効果で稼働率が増える中、それに対応できたのは人材の確保ができていたから。その結果、8年前と比べて売上高は2・5倍、利益も30倍程度に成長したという。

アジアでも事業を展開、ブランドイメージも変化

同社が現在、力を入れ始めているのは、海外への展開だ。「東京五輪開催による追い風はあくまでも一時的なもの。遅かれ早かれ、国内のインフラ整備は飽和状態になる。一方、アジアでは各地で、これから大規模なインフラ整備が始まる」ところ。

当社の技術力が存分に生かせる現場であり、技術を次世代に継承する機会を確保するためにも海外には積極的に出て行きたい」と若山社長は語る。

当初は取引先の日系企業から依頼を受けて技術者を派遣していたが、今では業務を請け負い、現地ワーカーの管理を含めた事業を本格的に海外で展開している。現在はインドネシア・ジャカルタでの地下鉄延長工事や、バングラデシュの上下水道敷設

における地盤改良工事を手掛けている。

将来的には「海外事業比率が5割を超えることも予測している」（若山社長）という。

また若山社長は、異業種連携として人材派遣の会社を経営しており、労働力を確保する一方で、定年となる同社の「卒業生」に働き場を提供する仕組みも整えている。

さらに建設業界で働きたい就業者のために、一定のスキルを教える職業訓練学校を3年以内に立ち上げる構想もある。これは海外の現地ワーカーを育てる研修にも活用できるシステムだ。「業容が広がる中、社会に貢献できる企業として、ブランドイメージも変化してきた。今年度からは大卒の採用もスタート。高度なスキルとマネジメント力、現場対応力を兼ね備えた「メタルカラー」の集団として進化していきたい」と意欲を見せる若山社長。事業の継続性を重視し、目指すのは「百年企業」、数年後の上場も視野に入れている。

問い合わせ

双栄基礎工業株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-23-1 TK新都心ビル

TEL 03-5909-7145

FAX 03-5909-7146

<http://soei.tokyo/>



バングラデシュの作業現場にて。現地ワーカーを指導しながら作業を進める